

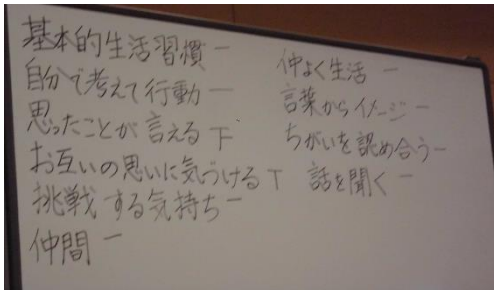
第 11 回 子どもの心を知って保育を創るVI(5歳児)
～ 第Ⅱの自我の確立 合意形成能力の育ち ～



講師 岡村 由紀子 氏

はじめに

5歳児は乳幼児期最後の年です。みなさんが思う「これが大事と思う5歳児の姿」を発言してください。



これを見て気づくことは何ですか。どれも見えない力で、人格完成の土台の部分です。ですから幼児期そのものが大事で、学校教育の準備期ではなく、幼児の生活や遊びの中で学校生活の土台を創っているのです。

1 体の発達

この時期は自分でしなやかに、体のコントロールができるようになります。姿勢を制御する力がついてきているので、リズム遊びの時にぴたっと体を止めることができます。きれいな側転ができるのもこの時期です。

物や動きに対して予測判断する力がついてくるため、ボールが飛んでくるから避ける、園庭のトラックを線に沿って走るなどの力がついてきます。他にも、味噌汁をこぼさないようにそお〜と運ぶなど、体全体の神経を使って行動ができるようになります。

2 心の発達

① 豊かな社会性

遊びを土台にして、豊かな社会性が育ちます。自分の考えていることを言う、人の意見を聞く、話し合うといった「交際能力」がついてきます。ここでも自己コントロールが必要です。カルタ遊びの際、自分の取りたいカルタをとられ、「わー」と声を上げて、カルタをぐちゃぐちゃにする子がいます。これは5歳児の姿ではありません。人の思いを理解する力がまだ育っていないのです。自分の心と見つめ合って、どこで心の折り合いをつけられるか、「う〜ん」と考えて、今度はがんばろうとする姿が5歳児です。

自園では、カルタをグループで取り組んでいます。年長でも一番になりたがる子、文字が苦手な子などいろいろな特徴の子がいます。グループでやれば、取れなくても、次は頑張ろう「エイエイオー」とやって、集団の関係性を高めて、カルタ遊びを楽しみます。何枚取ったからすごいとか、勝ち負けより、取れなくても楽しい、見ているだけでも楽しい、そのような遊ぶ姿をめざしたいです。

自分の意見を言って、「ちがうよ、こうだよ」と話し合い、みんなで一つのものを作り上げていくのが、「運営能力」です。この「交際能力」と「運営能力」を兼ね備えた時に豊かな社会性が育ってきたと言います。

② 基本的な力

時間的な見通しを持って、行動する力がついて

きます。そろそろお昼だから、今はこれをやりた
いけど、これは続きにして、お昼ご飯にしよう
という力です。

いろいろな概念も形成されていきます。例えば、
玉入れでよく見られるのは、「1、2・・・」と
数えるやり方です。しかし、多くの子が砂で遊ん
でいることがあります。自園では、このような↓
表を用意

♡																			
◆																			

し、出した玉を並べに行くようにしました。こう
すると、長さでどちらが多いかがわかり、数え終
わるまで子どもが楽しめる遊びになりました。そ
の楽しむ姿を見た時、私たちはもっと丁寧に保育
をしなければいけないと思いました。

ひらがなの「し」を書くためには、上下左右と
いう位置関係が理解できていないと書けません。
保育の現場では、「セロテープの左に置いてある
はさみをもってきて」など、生活の中で意識させ
ることで位置の概念が育ってきます。

学校教育と同じことをするのではなくて、子ど
もの中に多様な概念を経験させていく生活や遊
びの場面を作っていく必要があります。できる・
できないにこだわってしまうと、小学校になった
時に崩れてしまうことが多いです。乳幼児期に自
分で考えて、試してやるということが非常に大事
です。

③ 想像の世界

豊かな社会性の「交際能力」が全開になります。
例えば、実習生をクラスに招待するために、みん
なで話し合って劇などを創作したり、会の内容を
考えたりします。伝えたい人と伝えたい事柄があ
る時、子どもは力を発揮します。自園では、卒園
の1週間前ぐらいから、子どもたちが大きく変
化し、表現が豊かになってきます。

④ 論理的思考や科学的思考への過渡期にあつ ての橋渡し

自分が楽しいだけではなく、相手やまわりの人
がどうすれば楽しむことができるのかを考える
力が育ってきます。

⑤ 時間の認識

昨日・今日・明日の『昨日』に豊かさが出てき
て、「3か月前に動物園行ったあの時のこと・・・」
のように記憶が長くなってきます。

⑥ 多面的理解

事例：外食をしよう（省略）

友達との話し合いの中で、豊かな他者理解が生
まれてくるのもこの時期の特徴です。

⑦ 5歳児の心の揺れ

5歳児は園の中では、最高学年であり、できな
くとも挑戦しようとつま先立ってやっている場
合があります。疲れてしまう場合があり、年長に
なって、何か目立つ、集中力がない、大丈夫かな、
この子こうだったのかなと感じる時があります。
憧れが発達をさせるエネルギーになる5歳児だ
からこそ見えてくる姿があります。

3 言葉の発達

① 話し言葉の形成

よく考えるという思考が発達し、話し言葉が成
立してきます。聞いてもらうことで聞く力が育ち
ます。スマホが生活の中に入ってきて、言いたい
ことを言う子が増えてきて、逆に聞く力が弱くな
ってきていると言われていています。不適切なことを
した時でも聞いてもらうという力が育っていれば、
自分の言いたいことを言った後に、大人の言葉
かけにより、自分の行動を振り返ることができ

ます。

② 書き言葉の世界への準備期

書く内容を考え、頭の中で会話し、自己編集してひとまとまりの文章として表現するとき、初めて書き言葉として成立します。そのためには、空間認知、手先の発達、音節の分解・音韻抽出、想像力、集中力が必要です。これらの力は、日常生活や遊びの中で育てていくものです。

子どもは成長するにしたがって、記憶する時間が伸びてきます。それが文字教育の土台になります。ウイゴツキは文字教育の前は創造性と言っています。

4 生活

5歳児は心地よく生活するための力(物の管理を含め)が育ち、生活の主人公になる時期です。見通しをもって行動する力がついてきます。そのためには保育者が生活のモデルとなることが必要です。事例:ままごとセットの環境設定、憧れのトイレ当番(省略)

5 保育

幼児期の感性的土台に「大事にされる自分」という感覚を育てます。この時期の特徴としては、①なかまといることが楽しくてたまらず、「何してる?なかまに入れて」と言うのではなく、「なかまに入れて、何してる?」と言います。このように言い出すのが、年長の途中からです。②なかまと新しいこと、やりたいことにどんどん取り組み、困難も乗り越え、今までにない喜びや自信が育ち、集団の力が高まります。③友達の関係で、今まで何も気にならなかったことが気になったり、嫌に感じたりすることもあります。新しいなかま集団の質の変革期とも言えます。言い換えると子どもが自分をなかまの中で見つめ直していく時期でもあります。

6 指導

対等な関係の中で、自分の気持ちを伝えられるようになるためには、個の問題や遊びで起こる問題を集団で考えられるようにしていきます。どんな自分でも出していいんだよ!という経験を基本的ベースにして、他者の考えも同じ重みで受け止める経験をさせていきます。また、違いを受け止めるための合意(知恵や工夫)を言語的に表現することで、感情的な土台の自我を創る手助けをしていきます。

具体的には要求を本音で出させるようにします。一見わがままに見えることでも、時間がかかっても出させることです。それは友達に甘えられる、安心できる環境だからこそ出せるのです。その際、「もう年長だから」「何回も言っているのにね」という指導は意味がありません。子どもの思いや考えを尊重することで、子どもと保育者の間でさらに信頼関係が生まれます。

今までやったことのない、やってみたい!と挑戦する活動を子どもたちの要求の中から創りだしていきます。子どもの中で、関係がギクシャクしたり甘えがきつく出たりする姿が見えることがあります。「あの子は強い」「いぼっている」などと子どもが言っても、以前からその関係にあったとみるのは危険です。これはその子なりに背伸びをしている姿です。子どもの課題は一人一人違います。一人一人の人間関係図の視点で子どもの姿をとらえていくことが大切です。さらに子どもがわかる視点で、物事の意義を明確に伝えていく必要があります。

終わりに

幼児期のあそびの経験は「できるかできないか」ではなく、「意欲的に楽しく取り組めるか」です。何回も何回も失敗しても挑戦するのは、子どもの

心にある「やりたい」と思う自分からの意思・意欲です。意欲・自信・なかまのつながりの深さを伴った「できる力」は、自信を育て、学童期に向かって生きる力・学ぶ意欲に繋がっていきます。

幼児期の大切な保育とは・・・

- ・集団の中での自己主張
- ・共同的活動の豊かさ
- ・子どもと一緒に保育を創る

保育は子どもたちに憧れを創りだすしごとです。

こま名人になりたい！ **事例**

サンタさんに貰ったコマ。冬休み明けコマ遊びが、少しずつ始まっていました。そこで、前のひまわりさんが使っていたコマ表を見せると「やりたいやりたい」という子どもたちに表を渡しました。表の始めは「コマをまわしたい」次は「ひもがまわせる」……最後は、10回続けて回すと名人！！出来る順番は、関係なく技にも挑戦したり……です（ゆっくりゆっくり・・・）

この日、挑戦したのは、Aちゃん。はりきってなんと1回の失敗もなく10回続けて回せて『名人になったー！』と大喜び。でもすごい集中にちょっと疲れてしまったみたいAちゃんでした。（かわいいね）そんなAちゃんの姿をみて「やる！」と取り組むのがBくん、Cくん、Dくん、Eくん。もう真剣です。そんな中、C「うまい！」と自分の巻く紐を見て惚れ惚れ言うので「よく動く手だからだね。包丁うまいしね」と言う。「うん。みじんぎり」その後も巻くたびに「うまい！」と言うCくん。（かわいいね）そしてなんと9回目「ドキドキする」とやったら成功。「超ドキドキする」と10回目

をやったら「あ〜」残念顔。勿論見ているまわりも「あ〜」。でもすぐ挑戦するCくん。

続いてDちゃんも、やっぱり9回目で{あ！}と残念顔。まわりもがっかりモード。でもまた挑戦のDちゃん。

Eくんは、7回目で失敗。でも明るく「超緊張する！」と再度挑戦です。

Bくんは、回るときと回らないときがあり、それでも、もくもくと挑戦。

「大変だよなー」「失敗するといやなんだよなー」「ドキドキする」……の音が聞こえて来たので、『そう言えば、前のひまわりさんも10回目で回らず悔しくて泣いたお友達がいたっけ』と言うと、B「なかなかやる」C「がんばる」D「あきらめないでね」E「がんばろう」……と挑戦してなんと、Cくん、Dちゃん、Eちゃんが名人になったのです。

9,10回目の挑戦は、「みんなで見る」なんて子ども同士で、ルールを創り、その喜びは、本人も周りもすごかったです。（こどもは、すごい！！）

その渦が、Fちゃん、Gちゃん、Dちゃんを巻き込んでお昼からも、続けてやり絵本の時間も「今日は、絵本見ないでやる」と「目指せ！名人」に挑戦。

2時30分ぎりぎりまで挑戦する、Bくん、Gちゃんを囲むAちゃん、Cくん、Dちゃん、Eくん。一つ一つの動きに応援です。「あきらめずにやることだよ」「竹馬とおなじだよ」「みてて。なげかたがわるんだよ」の応援の声。そんな中、GちゃんもBくんも9回目までやるのに最後が回らないのです。『緊張しないで』『9回目と思わず1回目と思えばいいよ』の声もむなしくこの日は、お帰りに。Bくんは、その後もがらがらどんで、ずーとやったのに（体操教室のC君もHちゃんも9回目になったら来るからね。と時々来ていました）でも、やっぱり9回目で残念でした。でもB君は、この日「絶対名人になる」気持ちを強く持ったようでした。

次の日も、朝から、はりきって回すBくんとG

ちゃん。8回、9回行くのに10回目が回れないのです。そこで周りにいた子ども達が「9に戻れるよ」なんてルール変更の提案も出てきたけど本人達が納得しません(素敵だね)

そんな2人を応援する中、お昼前に、やっとやっと名人に。最後のBくんのコマは、コマ道場の2センチくらいの枠の上で周り『コマの神様からのプレゼント』だったのかな?と思うほどでした。この時の様子思い浮かべてみてくださいね!言葉では、言い表わせません!!

そんな中、DちゃんやFちゃんが『こま名人』に挑戦。やりたいあそびが沢山あるのですぐには夢中になれないのです。それも素敵ですね。

あまり関心がなかったIちゃんも自分から紐を巻いて挑戦を始めています。まき方がとても綺麗で、Iちゃんもにっこりです。Jくんは、「こんど教えて」と頼まれています。(待ってるね) Kちゃんは「いまはやらない」と言いながらもみんなのやる姿に関心を持っています。(遊びは、自分からやりたい!と心が育っていくことが大事です)

第11回 保育者資質向上研修会 平成29年2月9日 会場：焼津市総合福祉会館ウェルシップ
--